

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

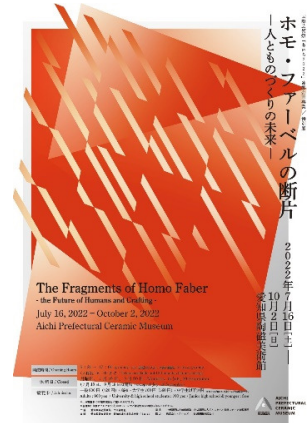
状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】(https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2022/t_homofaber/index.html)

7月16日(土)～10月2日(日)

特別展：ホモ・ファーベルの断片－人とのづくりの未来－

東海地域には豊富な天然資源があり、ありとあらゆるやきものをつくり出して人々の暮らしを密に支えてきました。本展では人の創造性をテーマに、創造の前提となる「素材」、培われてきた「技」、形成されてきた「場」に焦点を当てます。この3つの観点から、当地域の現代陶芸を紹介し、人とのづくりの関係を再考します。なお、本展は本県の誇る歴史、地場産業、伝統文化の再発見をコンセプトの一つに掲げている国際芸術祭「あいち 2022」と同時期に開催し、連携イベント等を行うことで、この地域の陶磁文化を国内外に発信していきます。



2. 瀬戸市美術館【愛知・瀬戸】(<http://www.seto-cul.jp/information/index.php?s=1654310886>)

6月4日(土)～7月31日(日)

瀬戸市美術館開館40周年記念 瀬戸美術館特別展：

「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 皇室の名品－愛知ゆかりの珠玉の工芸－」

瀬戸市美術館開館40周年記念 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の名品を展示します。三の丸尚蔵館は皇室に代々受け継がれた美術品を大切に保存・管理・展示しており、本展では至高のコレクションの中から、瀬戸・愛知にゆかりのある珠玉の工芸品をご覧いただけます。本展では瀬戸出身や瀬戸で窯を築いた作家など瀬戸にゆかりの深い作品を主に展示します。また愛知が誇る伝統的工芸品である「尾張七宝」も取り上げます。緻密にデザインされた尾張七宝は国内だけでなく、海外でも高く評価されています。今回ご紹介する一部の作品は、三の丸尚蔵館でもこれまで展示されたことがなく、本展が初公開となるものもあります。日本文化の神髄とも呼べる皇室の名品を通して、瀬戸・愛知が誇る珠玉の工芸品を是非ご堪能ください。



3. 三井記念美術館【東京・中央区】(<https://www.mitsui-museum.jp/exhibition/next.html>)

7月9日(土)～9月19日(日・祝)

企画展：リニューアルⅡ 茶の湯の陶磁器 “景色”を愛でる



三井家が収集した茶道具の中で、その中心となるのは陶磁器といえます。なかでも茶碗や茶入、花入や水指などには、釉薬の変化や器の姿など「景色」を感じ、そのインスピレーションから多くは文学的な銘が付けられています。器の中に自然を見出し、わび・さびの美を感じる茶道具独特の審美眼を、「景色で愛でる」という括りを取り上げます。銘が象徴する名品の「景色」を、自然を見るような心持ちで鑑賞していただきます。